

## 天覧山・多峯主山の代表的な夏鳥 キビタキ

長谷川 裕子

5 月、春のにぎやかさが落ち着き始め、だんだんと新緑が深まってきます。その中で、樹上から「ヒィ、ヒィ、ヒィ」と高い音のさえずりが聞こえ始めます。樹上を見上げると、黄色と黒色の鮮やかな色彩の鳥、キビタキがいました。



キビタキ(オス)  
河合 裕氏撮影

キビタキは、全国的に広葉樹林で見られる夏鳥です。鳥は、渡る鳥と渡らない鳥で、大きく区分されます。夏鳥とは、春に日本より南の地域から渡ってきて繁殖し、秋になると南の地域に渡って越冬する鳥のことです。キビタキは、主に昆虫を食べます。樹上で直立した姿勢で止まっていて、昆虫が飛んでくると、さっと飛んで空中で捕まえるのです。この方法は「フライングキャッチ」と呼ばれています。そのため、足はとても細く、指と爪がやや長めになっている特徴があります。

また、オスとメスで、色が全く異なります。オスは黄色と黒色で、喉はオレンジ色、翼には白い斑があります。メスは全体に暗いオリーブ色で、喉とお腹の中央は淡い色合いです。メスを見つけることはなかなか難しく、新緑に混じって見えなかったり、他の鳥に見間違えたりしてしまいます。たまにさえずりをしているオスのそばで見かけることがありますので、オスを見つけたら周囲を見て見ましょう。

天覧山・多峯主山でもキビタキのさえずりをよく聞くことができます。出会えると、とても嬉しくなること間違いなしです。ですが、嬉しくなって大きな声を出したり、勢いよく指差したりすると、鳥は動物に襲われると思い、とても驚いてしまいますので、そっと見守るようにしましょう。

5 月中旬から、飯能市立博物館では天覧山・多峯主山の野鳥の写真展示を行います。キビタキのほかにも、周辺で出会える野鳥をご紹介しますので、是非お越しください。